FAXニュース
ŌMIYA
JR東労組大宮地本
2020年1月28日
No. 106

申6号『２０１９大宮地本政策フォーラムの提言』に基づく申し入れ交渉開催！

【工務関係 その①】

《1月24日交渉内容》 *※議論内容は要旨*

【工務部会】

１０．保線材料モニタリングにおける取得画像の質的向上を図ること。また、NSG によるスクリーニングについて、「継ぎ目板」のスクリーニング作業は行わず、技術センターへ早期のデータ譲渡を行える仕組みを構築すること。

組合：モニタリングを開始して１年が経過したが成果と課題は？
会社：軌道変位はリアルタイムで測定しグラフ化出来る。材料の成果は締結装置について工事化の優先順位が決めやすくなった。課題は共に、得たビッグデータをどう活用していくかだ。
組合：危惧しているのは材料で保技セがモニタリングを行うまでのタイムラグだ。発見した時の安全サイドの対応は良いが、発見するまでは通常運行。小山で NSG も保技セも接着絶縁継ぎ目板損傷をスルーし４ヵ月経って発見した事象がある。
会社：時間が掛かることは認識している。小山の事象以降、各保技セの継ぎ目板の数にもよるが NSG のスクリーニング後の OK もしっかり確認するようにした。
組合：材料は締結装置と継ぎ目板のワンセットだが、切り離して継ぎ目板だけ軌道変位のアラートのように飛ばすことは出来ないのか？
会社：今後の課題となる。材料はデータ容量が大きい。5G など今後の技術革新で可能になるかもしれないが。
組合：NSG のスクリーニング前のデータを保技セでも確認出来るのか？活用して良いのか？
会社：見れる。要注意の継ぎ目箇所など先行して確認してもらって良い。
組合：課題がデータの活用方と言っていたが、まさにこういうことだと思う。職場もスクリーニング前のデータを見れるということを知らないのではないかとも感じる。情報共有を。
会社：職場でのシステムの気づきが大切だ。職場の主体性が発揮されることも望みたい。
組合：NSG がデータをシステム接続し、保技セが確認できるタイミングを知るなどの体制も。
会社：契約内容を確認する。可能であれば検討したい。
組合：線路は列車の安全運行の根幹設備だ。早期不具合発見の観点からも必要な体制構築を。
また、烏山線の列車動揺検査が月１回から四半期に１回となったが根拠は？
会社：２００２年から２０１６年にかけて設備更新と併せて列車動揺の推移を検証してきた。その結果、９月から四半期に１回とした。East-i もあるので実質は年８回になるが。
組合：検査周期を変更した根拠がしっかり伝わっていない。根拠を P 社含めて周知すること。
会社：了解。また、今後も計画的な設備整備を検討していく。

１１．踏切・敷板・沿線柵等の線路設備環境を把握出来るよう、周囲環境モニタリング装置を搭載すること。

組合：材料モニタリングの画像範囲を拡大することは検討しているのか？
会社：様々考えていて、広げたデータが取れないか検討している段階だ。
組合：East-i の画像の質的向上は図れないのか？そのほうが効率的だ。
会社：付加価値的な画像だが活用は出来る。車両関係は関係箇所と調整検討したい。必要性は理解する。
組合：電力もそうだが、先頭巡視する際に４K カメラで動画を撮影して業務に活用している。保技セでも活用するべきだ。
会社：技セの現状を把握したい。必要なものは現場長と相談して決めていきたい。
組合：乗車巡視の重要性を鑑みて、車両の設備社員が添乗する側にもワイパーを設置してほしい。
会社：関係箇所と調整していく。

【その②へ】